

十勝のイオル再生事業の取り組み

アイヌの人々は、狩猟・採集・漁労を中心とした営みの中で、独特の文化を育んできました。

しかし、明治以降の開拓とともに、アイヌの人々が生活していた伝統的な生活空間（イオル）は失われ、自然とのかかわりの中で育まれた豊かな民族の知恵を伝承する人々も減少していきました。

十勝のイオル再生事業は、5番目の実施地域として、上士幌町音更川隣接地域を拠点に、平成27年度から実施しています。

《イオル再生事業》

アイヌ文化の保存、継承、発展を図るため、自然と共生していたアイヌの人々の伝統的な生活の場をイメージし、森林、水辺等において、アイヌ文化の継承等に必要な樹木、草木等の自然素材を育成するなど、アイヌ文化の伝承活動等が行われるような空間を形成する事業です。



空間活用事業
アイヌ文化の普及・啓発



自然素材育成事業
伝統的文化活動に必要な
自然素材の育成



タマヤ（樹皮）つくり体験



キヌタ（草）織り体験

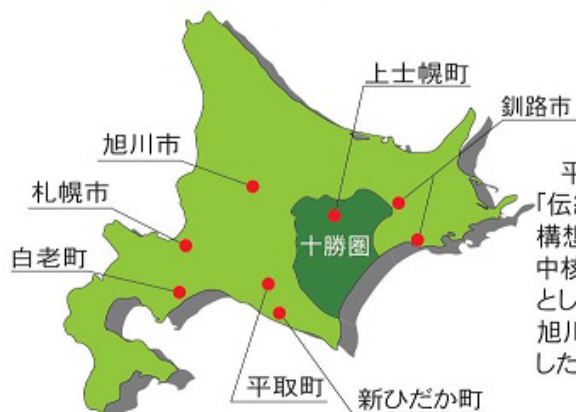


アイヌ料理体験

体験交流事業
体験学習を通じた
伝統や文化の理解促進



音更川（川）



平成14年に北海道が作成した「伝統的生活空間（イオル）再生構想の具体化に向けて」において、中核イオルとして白老、地域イオルとして平取、札幌、新ひだか、釧路、旭川、十勝の7地域が選定されました。

イオル（伝統的生活空間）

かつてアイヌの人たちは、川筋や水辺を中心とした地域に数戸から十数戸の集落（コタン）を形成し、生活を営んできました。

こうしたアイヌの伝統的な生活空間は、「イオル」と呼ばれ、生活に必要なものすべてをまかなう豊かな自然の領域をさすものでした。